










決 裁	議 長	局 長	次 長	係 長	係 員
				 	  

派遣承認要求書

令和4年 6月27日

栗原市議会議長 殿

栗原市議会議員 尾形勝通 

下記のとおり議員を派遣したいので、承認されるよう要求します。

記

日 時	令和 4年 7月 5日 (火) 8時00分から 令和 4年 7月 6日 (水) 16時00分まで
派遣先	・秋田県能代市大森「能代エナジウムパーク」 ・青森県青森市新町「酸ヶ湯キャンプ場」
派遣目的	・六角牧場風力発電計画は騒音や土砂崩れ等の環境被害が予想される。先進地の能代エナジウムパークを視察し住民生活に与える影響について視察研修する。 ・市では栗駒高原にキャンプ場を計画している。先進地の青森「酸ヶ湯キャンプ場」を視察し、持続可能で利用しやすいキャンプ場のあり方を視察研修する
経 費	7,300円 ホテルルートイン青森駅前宿泊費
派遣議員氏名	尾形勝通
議長依頼文の要否	要 <input type="radio"/> 否 <input checked="" type="radio"/>
備 考	

※ その他資料があれば添付願います。



栗原市議会会派 視察行程表

日程：令和4年7月5日(火)～6日(水)

月日	行 程	発	着	摘 要
7/5 (水)	栗原市役所正面玄関集合・出発			レンタカー
	栗原市役所 ～ 道の駅 あきた港	8:00	11:15	道の駅 あきた港 秋田県秋田市土崎港西1丁目9-1 TEL:018-857-3381
	11:15～12:15 道の駅 あきた港 にて昼食			
	道の駅 あきた港 ～ 能代エナジウムパーク	12:15	13:15	能代エナジウムパーク 秋田県能代市大森1-6 TEL:0185-52-2955
	13:30～15:30 能代エナジウムパーク 行政視察			
7/6 (木)	能代エナジウムパーク ～ ホテルルートイン 青森駅前	15:30	18:00	ホテルルートイン青森駅前 青森県青森市荒川南荒川山地内 TEL:017-731-3611
	ホテルルートイン 青森駅前 ～ 酸ヶ湯キャンプ場	8:30	9:30	酸ヶ湯キャンプ場 青森県青森市新町1-1-24 TEL:017-731-3611
	10:00～12:00 酸ヶ湯キャンプ場 行政視察・昼食			
	酸ヶ湯キャンプ場 ～ 栗原市役所	13:00	16:00	

視察研修結果報告書

令和4年7月27日

栗原市議会議長 佐藤 千昭 殿



視察・研修した結果について、下記のとおり報告します。

記

1 期間 令和4年7月5日～令和4年7月6日

2 視察研修先 ①能代エナジウムパーク

②酸ヶ湯キャンプ場

3 目的








- ①六角牧場風力発電計画は騒音や土砂崩れ等の環境被害が予想される。先進地の能代エナジウムパークを視察し住民生活に与える影響について視察研修する。
- ②市では栗駒高原にキャンプ場を計画している。先進地の青森「酸ヶ湯キャンプ場」を視察し、持続可能で利用しやすいキャンプ場のあり方を視察研修する

4 調査研究内容

- ①能代エナジウムパークを視察し住民生活に与える影響について視察したが、建設当初から、住民説明が行き届き、県所有地の海岸沿いの土地を利用しているので騒音被害等はないという。近くの火力発電所と共に秋田県を代表する一大電力供給地となり、特に安全性に注力している。
- ②先進地の青森「酸ヶ湯キャンプ場」は国の環境省が土地、管理棟を建設し地域の代表的な温泉を運営する「酸ヶ湯温泉」に運営を委託している。
- キャンプサイトの景観は八甲田山麓を近くに望み、大パノラマの中にあり、キャンパーの人気も高いという。
- 利用料金は基本料として一泊500円、追加で芝生サイト500円、固定サイト1,000円、オートサイト2,000円となっており適正な料金と思料された。
- 面積は約3ha位だが、キャンプ場の広さとしては十分な面積であると思われた。

5 参加議員 尾形勝通



決 裁	議 長	局 長	次 長	係 長	係 員
				 	 

派 遣 承 認 要 求 書

令和 4 年 9 月 9 日

栗原市議会議長 殿

尾形 勝通 

下記のとおり議員を派遣したいので、承認されるよう要求します。

記

日 時	令和 4 年 10 月 11 日 (火) 07 時 03 分から 令和 4 年 10 月 13 日 (木) 20 時 30 分まで
派 遣 先	余市町経済部農林水産課『北海道余市郡余市町朝日町 26 番地』 夕張市財政課財政係『北海道夕張市本町 4 丁目 2 番地』 はこだてみらい館『北海道函館市若松町 20 番 1 号』
派 遣 目 的	◎余市町が行っている 6 次産業化に関する施策や、地場産業に関する施策 (特区、ワインツーリズム) 等の独自施策の現地調査。 ◎夕張市が地方財政再建促進特別措置法に基づく、財政再建計画による財政再建を経て、地方公共団体財政健全化法に基づく、財政再生計画の策定に至った経緯や財政再建を行うために取り組んで来た具体的な内容等についての机上調査及び現地視察。 ◎内閣府で定める地方創生テレワーク施設でもあり、科学をベースとした多彩な最先端デジタルコンテンツを通して、誰もが「科学」を体験できる屋内型施設の開設経緯や、函館市の運営方法の現地視察。
経 費	旅費 86,850 円、 視察先視察料・施設入館料・視察先へのお土産代 6,136 円 レンタカー代 4,500 円、実費：高速料金、ガソリン代
派 遣 議 員 氏 名	尾形 勝通
議 長 依 頼 文 の 要 否	(要) ・ 否
備 考	その他参加者 高橋 渉・濁沼 一孝・菊地 広志・鹿野 芳幸・五十嵐 勇



米原中議云況余11任以

【会派名:市民くりはら】

日程: 令和4年10月11日(火)~10月13日(木)

月日	行 程	発	着	摘 要
10/11 (火)	くりこま高原駅 ~ 新花巻駅	7:03	7:37	J R新幹線はやぶさ95号
	新花巻駅 ~ 花巻空港			タクシー移動
	花巻空港 ~ 新千歳空港	9:20	10:20	JAL2830便
	新千歳空港 ~ 小樽駅	11:06	12:22	JR快速エアポート111号
	小樽駅 ~ 余市駅	12:34	13:00	JR函館本線
	昼食等			【町内】
	余市駅 ~ 余市町役場	14:00	14:20	
	【行政視察(机上調査)】 「6次産業化や地場産業について」	14:30	16:00	余市町役場 経済部 農林水産課 TEL:0135-23-2141
	余市町役場 ~ 余市駅	16:05	16:25	
	余市駅 ~ 小樽駅	16:47	17:12	JR函館本線
ホテル(小樽泊)			【宿泊先】 グリッツプレミアムホテル小樽 住所: 小樽市稲穂1-3-13 TEL: 0134-31-5801	
10/12 (水)	小樽駅 ~ 札幌駅	8:18	8:57	JR函館本線
	札幌 ~ 夕張市内	9:30	11:30	レンタカー移動
	昼食等			【市内】
	【行政視察(現地視察)】 「夕張市石炭博物館」	13:00	14:40	住所: 夕張市高松7番地 TEL: 0123-52-5500
	【行政視察(机上調査)】 「財政再建計画について」	15:00	16:00	夕張市役所 財政課財政係 TEL: 0123-52-3122
	夕張市役所 ~ 札幌駅	16:30	19:00	レンタカー移動(返却含)
ホテル(札幌泊)			【宿泊先】 アパホテルTKP札幌駅前 住所: 札幌市中央区2条西2-19TPK札幌ビル6F TEL: 011-252-3167	
10/13 (木)	札幌駅 ~ 函館駅	8:43	12:34	JR函館本線(北斗6号)
	昼食等			【市内】
	【行政視察(現地視察)】 「はこだてみらい館」	14:30	15:30	住所: 函館市若松町20番1号 キラリス函館3階 TEL: 0138-26-6000
	函館駅 ~ 新函館北斗駅	16:40	16:57	JR函館本線(北斗17号)
	新函館北斗駅 ~ 盛岡駅	17:26	19:13	J R新幹線はやぶさ44号(乗り換え)
盛岡駅 ~ くりこま高原駅	19:40	20:30	J R新幹線やまびこ72号	

様式第10号（第7条関係）

視察研修結果報告書

令和4年10月20日

栗原市議会議長 佐藤 千昭 殿

氏名 尾形勝通



視察・研修した結果について、下記のとおり報告します。

記

1 期 間 令和4年10月11日～13日

2 視察研修先

- ① 北海道 余市町役場（経済部・農林水産課）
- ② 北海道 夕張石炭博物館
- ③ 北海道 夕張市役所（財政課財政係）
- ④ 北海道 はこだてみらい館

3 目 的

- ① 余市町が行っている6次産業に関する施策や、地場産業に関する施策、ワイン特区やワインツーリズム等の独自施策を栗原市に活かせるかの調査。
- ② 同じ鉱山跡の栗原市の細倉マインパークとの展示比較や、展示内容、運営方法の比較調査。

- ③ 地方財政再建促進特別措置法に基づく、財政再建計画による財政再建を経て、地方公共団体財政健全化法に基づく、財政再建計画の策定に至った経緯や、財政再建を行う為に取り組んで来た具体的な内容についての調査。
- ④ 内閣府で定める地方創生テレワーク施設でもあり、科学をベースにした多彩なコンテンツを通して、誰もが「科学」を体験できる屋内型施設の開設経緯や、函館市の運営方法の調査視察。

4 調査研究内容

別紙の通り。

5 参加議員

尾形勝通

調査研究内容

1 余市町役場 経済部 農林水産課 (10月11日)

(北海道余市郡余市町朝日町6番地)

栗原市の産業振興に資するため、余市町を視察研修したので報告します。

6次産業への取り組みについて、余市町議会議長、中井氏をはじめ経済部農林水産課、奈良課長他、担当職員に歓迎頂き、資料やプロジェクターを使いながら丁寧な説明を頂戴した。余市町の農業の現状と漁業、6次産業化を政策目標にして取り組んでいる現状を説明頂いた。農業のメインは樹園地で、畑や田は殆ど無いとのお話で、ワイン産業の振興に力を入れている事が良く分かる。ぶどう栽培は生産者の栽培技術の高さもあり、高品質のぶどうが採れ、北海道のぶどう生産の半数以上が余市産との事や、様々な銘柄で販売されているワインのぶどうも、実は余市産とのお話で力の入れ方が違うのには納得だった。ワイン特区の目的は、少ない投資でワインの醸造ができ、色々な緩和措置があるとのお話で、栗原市で行われているワイン事業にも生かせないかと思う。また海が近いので海産物も豊富で、特に余市産牡蠣は有名らしい。ワインと牡蠣などの「食」とのマリアージュで「余市スタイル」として産学官連携強化が今後の戦略との事だった。

2 夕張市石炭博物館 (10月12日)

(北海道夕張市高松7番地)

NPO法人 炭鉱(やま)の記憶推進事業団理事長兼、石炭博物館館長の吉岡氏にご案内と説明を頂いた。1874年アメリカの探検家ベンジャミン・スミス・ライマンが石炭の存在を示唆し、1888年に道庁技師の坂市太郎が石炭の大露頭を発見した事から「炭鉱の街・夕張」の歴史が始まったとの事だ。豊かで高質の石炭を背景に炭都として栄え、24の炭鉱と12万人の人々が暮らしていたとのお話だった。本館1階では色々な企画展を開催し、ミュージアムショップや夕張一綺麗なトイレも設置されており自由に利用できる。本館2階は炭鉱の歴史に触れる事が出来る資料や展示物の常設展示場になっており、平日にも関わらず多くの来館者が居た。地下展示場には臨場感があるジオラマや機械、マネキンも沢山あり、当時の採炭方法が分かり易く説明されていた。細倉マンパークの展示方法や運営方法とは少し違っているが、良い所は真似しながらお客さ

んを増やす事を考え、今後の地域再生に向けて取り組みを始めて行かなければと感じた。

3 夕張市役所 財政課財政係 (10月12日)

(北海道夕張市本町4丁目2番地)

栗原市の財政の健全化に資するため夕張市を視察研修したので報告します。

夕張市議会事務局、山下主任や大山市議会議長、財政課、池係長にご同席頂きご説明を頂いた。栗原市議会の他、石川県野々市市議会様、新潟県十日町市議会様と一緒に、夕張市の現状についてお話を伺った。10月1日現在の夕張市の人口は6,830人、世帯数は4111世帯。面積が広大な割に人口が少なく、毎年かなりの人口が減っているとの事だ。石炭産業が栄えた時は12万人の人口が今では7千人弱である。これでは税収も上がらず経済も回らない。財政悪化の要因は炭鉱閉山、人口減少、観光施設への過大投資、行政体制の効率化の遅れ、不適正な財務会計処理による赤字表面化の回避と、実質的な赤字の拡大に有ると思われた。平成18年6月20日、地方財政再建促進特別措置法に基づき財政再建団体になった。赤字の解消額は353億円、標準財政規模の801.4%だ。計画期間は平成18年度から36年度(実質18年間)との事だ。巨額の赤字を解消するために、徹底した行政のスリム化と、事務事業の見直しを図る事とし、市民生活に必要な最小限の事務以外は原則廃止、税率の見直しによる市税の増収を図りながら歳入を確保している現状だ。議会で何かを決めるにも、総務大臣の許可が必要との事で、緊急を有する議案についても直ぐには可決出来ないとのお話だった。わが市においても、財政は決して豊かとは言えない状況だ。夕張市を反面教師にして健全な市政運営に努めて行かなければと感じた。

4 はこだてみらい館 (10月13日)

(北海道函館市若松町20-1 キラリス函館3F)

函館駅の目の前のビルの3階にあり、ワンフロア全体が体験型の施設になっていた。副館長の柴嶺氏にご案内と説明を頂いた。精細な空間再現ディスプレイ(Spatial Reality Display横に長い)で、3DCGで再生した生き物や物体をじっくり観察でき、まるでそこに存在するかのようにリアルで鮮やかな立体視体験が体験でき、目の前に現れるまったく新しい映像空間に近未来を感じた。大人も子供も楽しめる施設で、函館市の先進事例への取り組み方が感じられた

テラスでは飲食も可能で寛ぐ事もでき、親子連れが楽しめる施設と感じた。栗原市にも空きスペースを利用して、このような体験型施設が出来ないものかと感じた。